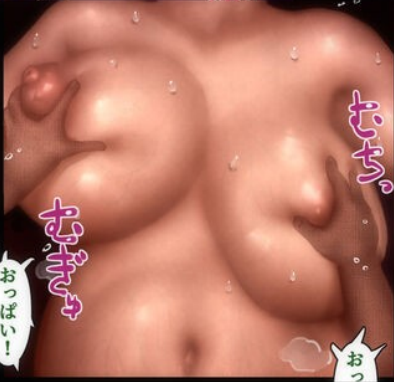


恐怖！！
名物キチおばさん
ハラモドキ

この町に潜む
怪物

一人ずつ消されていく



フルカラー漫画

うちの学校には「原先生」という
名前のおばさん先生がいる。



原先生はいつもダサイ服を着ていて
不潔感があり、大きな丸メガネをか
けている。

そしてこの町には「ハラモドキ」という、いわゆる名物お婆さんがいる。いつも同じ服を着て、町内をにやにやしながら徘徊しているかなりやばいお婆さんだ。



大きな丸メガネや不衛生な雰囲気
が「原先生」と似ていることから
誰かが言い出した「ハラモドキ」という呼び名が定着した。

「ハラモドキは5秒以上見てはいけない」と言われている。ハラモドキを見て笑っていた子が、翌日から学校に来なくなったらしい。
このうわさが本当か嘘かは分からないが、ハラモドキはお婆さんにしては背が高く、僕たちよりも体が大きい。



そのため、直接ちよっかいを出すことはなく、遠くからバレないようにからかうだけだった。

ある日

東公園の裏から出たところに
さー、なんか変な廃屋あるよね？

ぼけ〜

あー、あるね！
なんか気味が悪いから
ちゃんと見たことは無
いけど。

ぼ。

えー！大丈夫なのかな？
不法侵入っていう犯罪じゃないの？

いやいや、人が住んでなけれ
ば不法侵入じゃないだろ！

そうなの？

うーん

たぶん。てか、人がいないならバレ
ないし、通報されることもないし！

それは、そうだね。

明日、
あの廃屋に行ってみない？

キィ

ど。

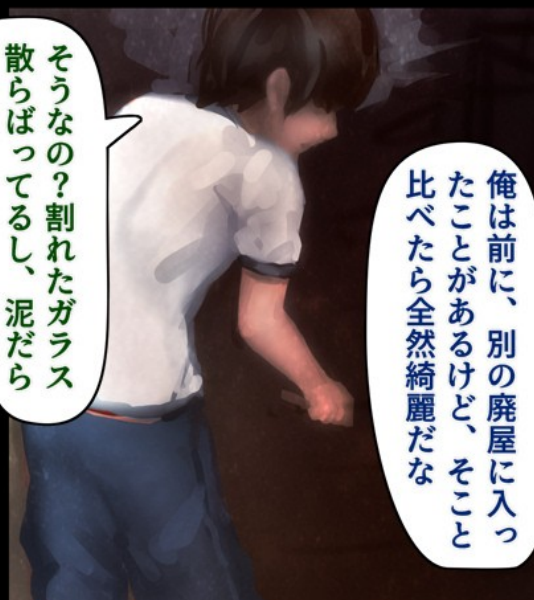
じゃあ決まり！せっかくだ
からヒロムも誘っとくわ！

わかった！

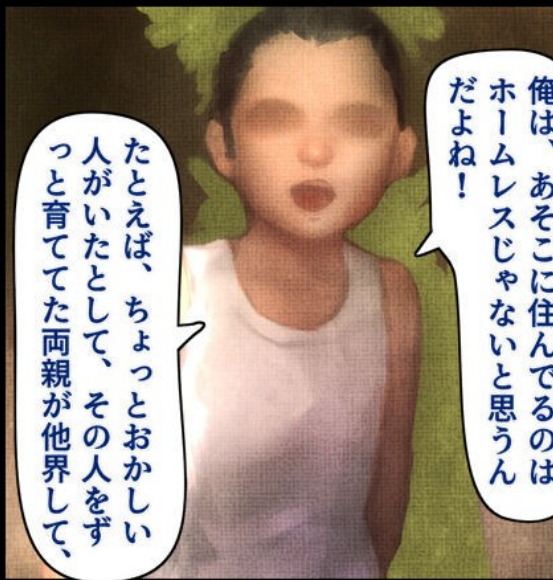
じゃあ明日の昼の1時に東
公園集合な！

明日は土曜日で、特に用事も
無かったため、僕はタクヤの
提案に乗ることにした。

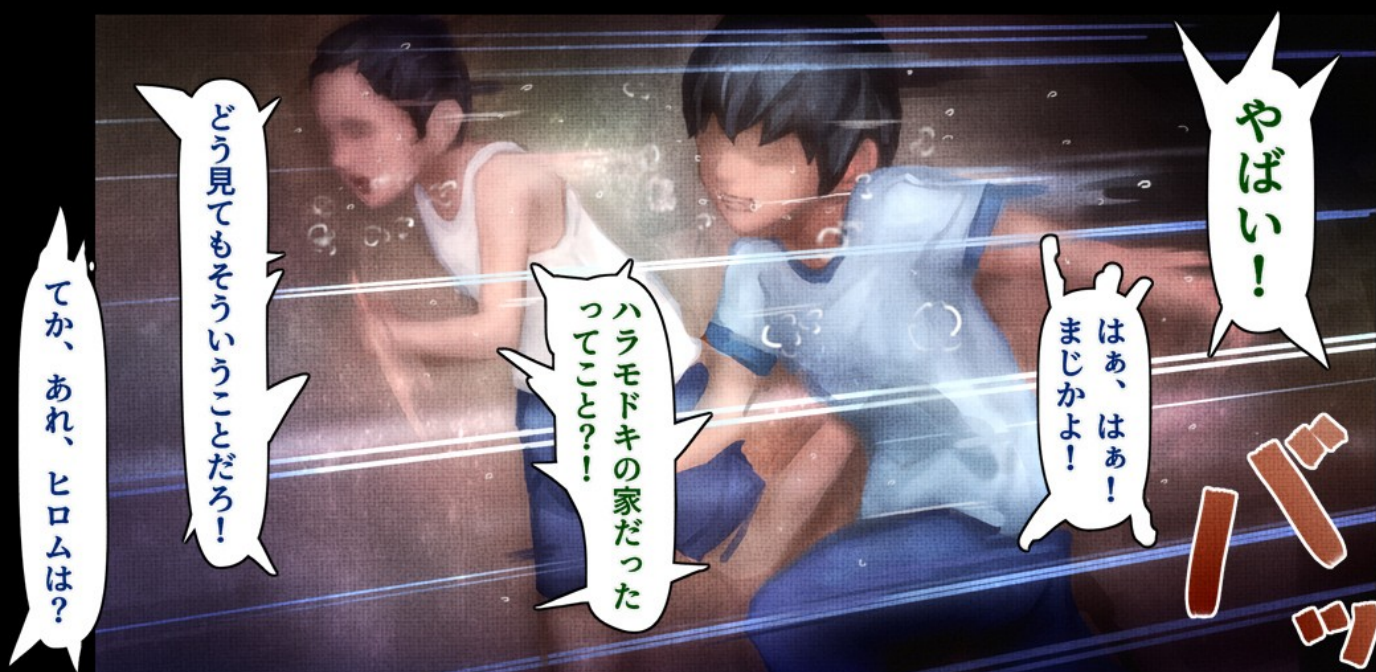
翌日

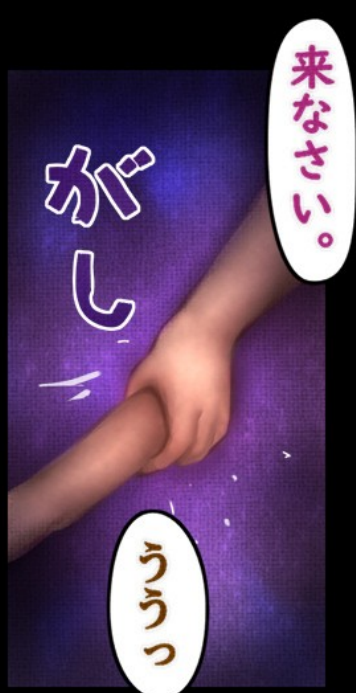


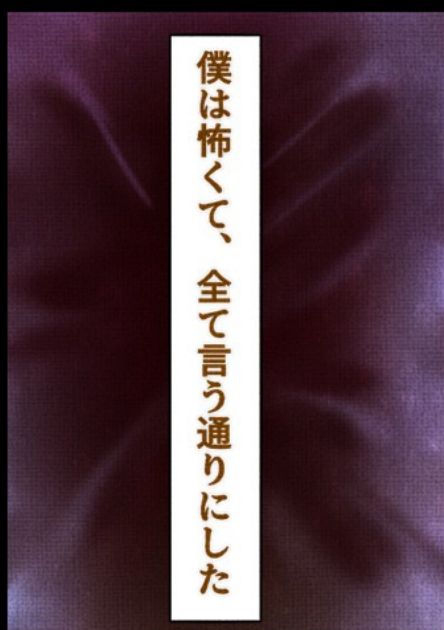




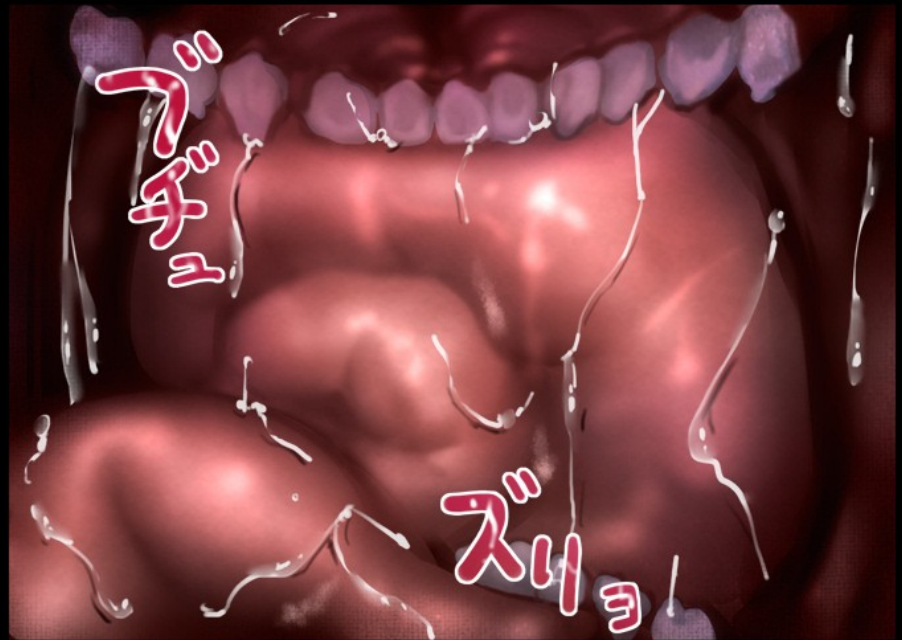
数分後













うっ

くにくゅ

かわいいちんちん♡

ぴくん



ああんっちんちんっ

まぐゅ



おっ、おいひいれす...

もぎぎ

もぎゅ

いせる

♡

♡

おいしい？

おっぱいもぐもぐしてっ
いいのよっ

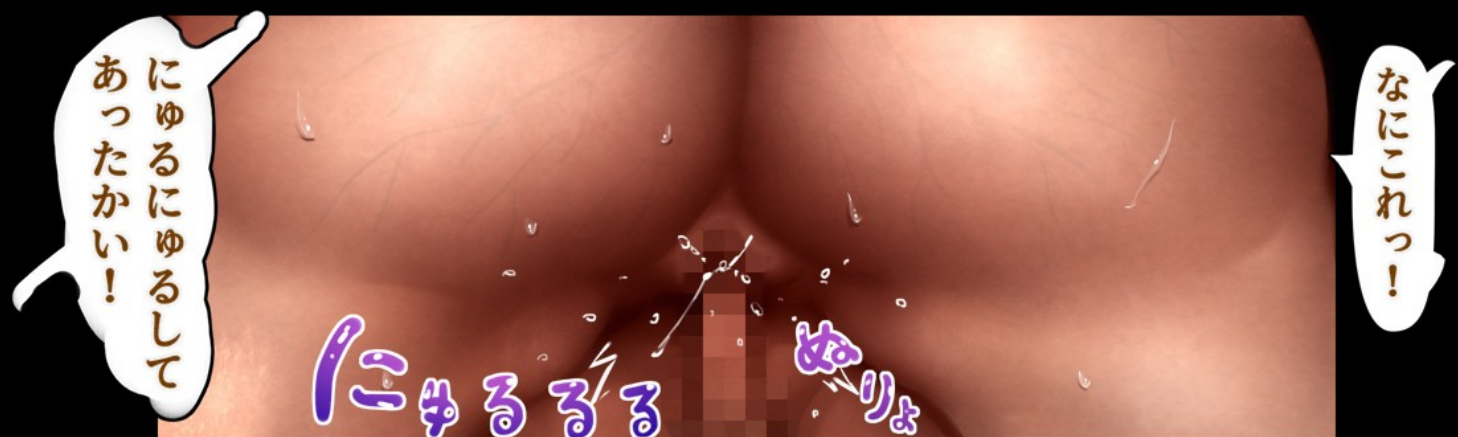
しゅに

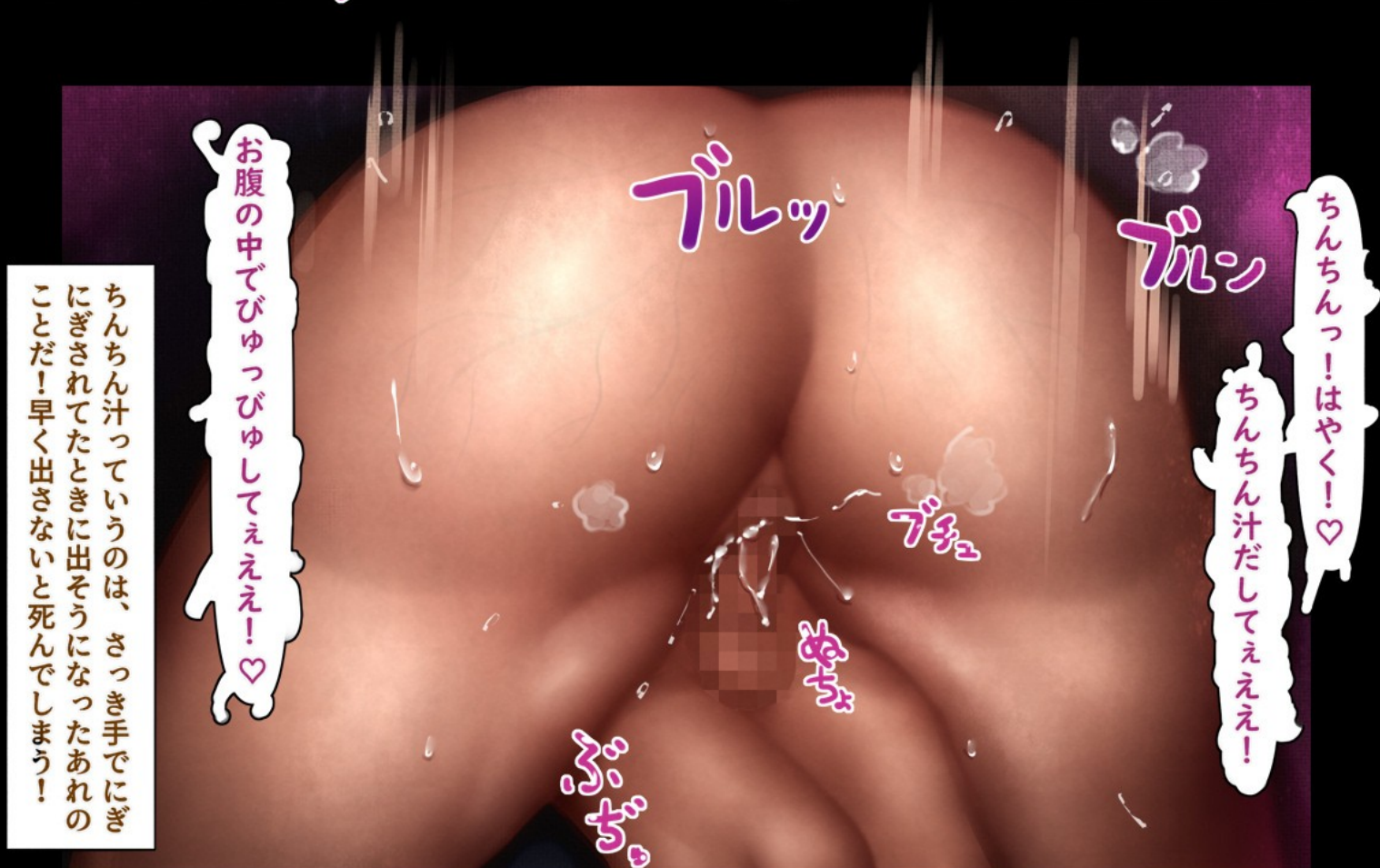
しゅに

しゅに

ずし

ビクン







おばさんまんまんに
びゅっびゅしちゃうのお?♡

はっ♡

はっ

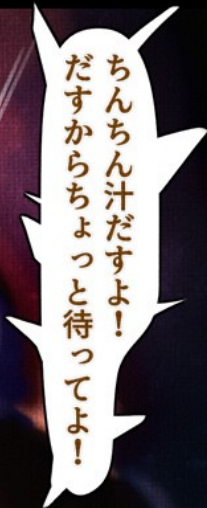
はっ



あんっ!でるの?
出ちゃうのお?♡



むに



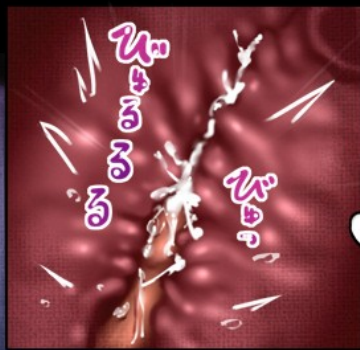
ちんちん汁だすよ!
だすからちよっと待ってよ!



出てる出てるっ!♡

びく

どっ



びゅる
びゅる
びゅる

びゅる

出てりゅうう!♡

んおっ!♡

びく

はっ

はっ

うああ!

びく

ぎゅむ



確かなのはハラモドキが本当に狂っている
ということと、僕の体力がもう限界に近い
ということだ。

何時間経ったんだろう。何回あの感覚が
やってきたのだろう。もう覚えてない。

体液と唾液と汗のにおいが充満する薄暗い廃屋の
中で、このおぞましい行為はいつまでも続いた。



月曜日、ヒロムは登校して
なかった。間違いなくハラモ
ドキが関係していると思っ
たけど、タクヤはなぜかヒロ
ムの話をしてこなかったから、
僕もなんとなくヒロムのこ
とは話さなかった。

下校中



道路の向こう側で、ハラモドキ
が道行く人の顔をひとりひとり
覗き込みながら徘徊していた。

きっと探してるんだ。
俺たちを。

どうするんだよ！

タクヤ！

どうって、とりあえず今は
ハラモドキが通り過ぎるま
で待つしかないだろ。

その日の夜

ずっと隠れて登校するのいやだし、なんとかしなきゃな。

こっちから謝りにいけば、多分許してくれるだろう。向こうは大人だし。

居ても立っても居られなくなった。俺は元々、思ったらすぐ行動するタイプだ。

えー、やだよー。夜だし、明日でいいじゃん！

いやまあ、そうだけどさ！知ってるだろ？俺の性格。

知ってるけど、それは付き合えないよ。

とりあえず今日は無し！じゃあまたね！

ちっ、あいつ

ツー ツー

さすがに1人で行くのは怖いし、明日にするか。

そう思い一度は寝転がったが、やはりハラモドキが頭から離れず、気づいたら家の外へ駆け出していた。俺はそういう性格なんだ。



夜だからより一層不気味に見えるが、廃屋の奥の方に光が見える。

やっぱり住んでるんだ。

こんばんわ！
こんな時間に失礼します！

誰かいらっしゃいますか！

ザッ

待っていると、ゆっくりと奥のほうからハラモドキが現れた。

また来たのね。

ギイ

えっ？あつ！そうです！

...

この前の土曜日に、あなたの家に勝手に入りました！

そのことを謝りにきました！

バツ

カケルくん？

え？いえ

ゴゴ

タクヤくん？

そ、そうです。

さあ、入って。

ゴゴ

怖かったが、思ったより普通にやりとりができた安心感と、こちらが謝っている側ということで、ある程度向こうの要求には従うべきだと思い廃屋に入った。



人前でパンツを脱ぐのはすごく恥ずかしいが、これで許してもらえ
るならと思う、いう通りにした。

そうよ。早く。もぞ

ぬぎ



許してほしいの？

はい！
そのために
来ました！

そう。
じゃあパンツを脱ぎなさい。

パンツを、ですか。

ニヤ



えっ！

なにやってるんですか！

ぬちゅ

れろ



はあ

ドキドキ

あん♡

はあ

はあ

おちんぽ、おちんぽ♡

フル

フル



ぞくぞくと変な感じがする。
腰に力が入らず、立ち上が
れない！

おいしい！

若ちんぽおいひい！

ブチュ

かふ

プチュ

ぎゅ

この人、やばい！





お仕置きよ

ビクッ

ビクッ

ああそうか。俺は確かに悪いことをして、それのお仕置きを受けているんだった。

なんなんですか、いったい・・・



んーっ♡

はぁ

ねばねばしてっ♡

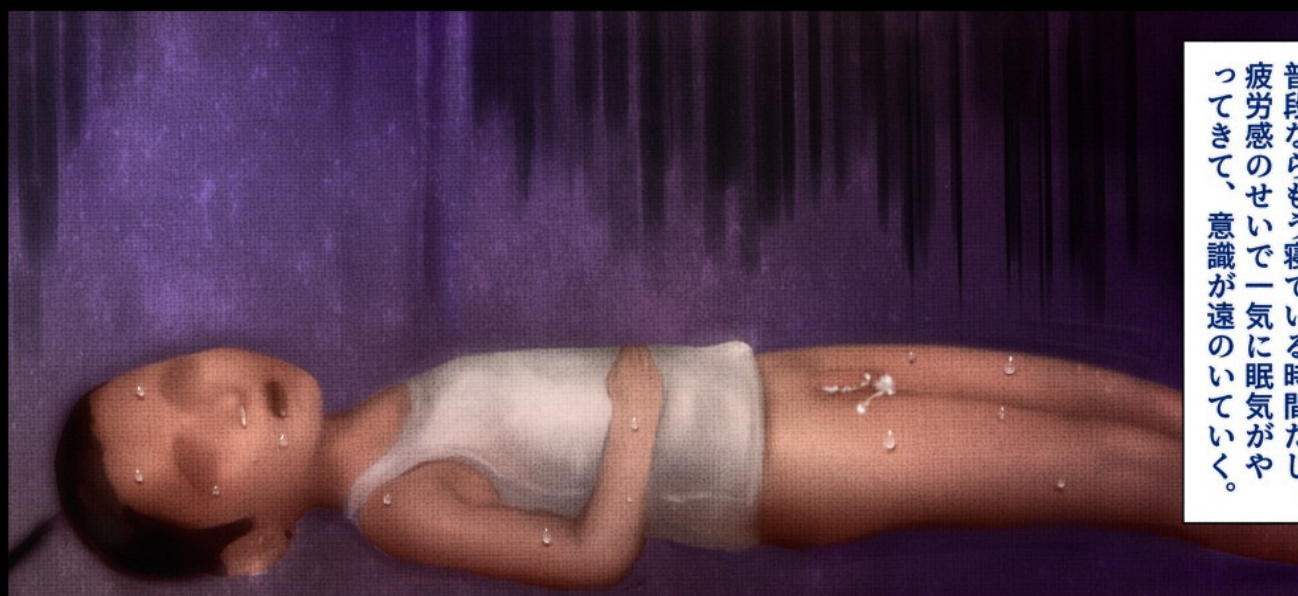
はぁ

ぐぽっ

ドロ〜

ポッ

喉にひっかかってるわぁ♡

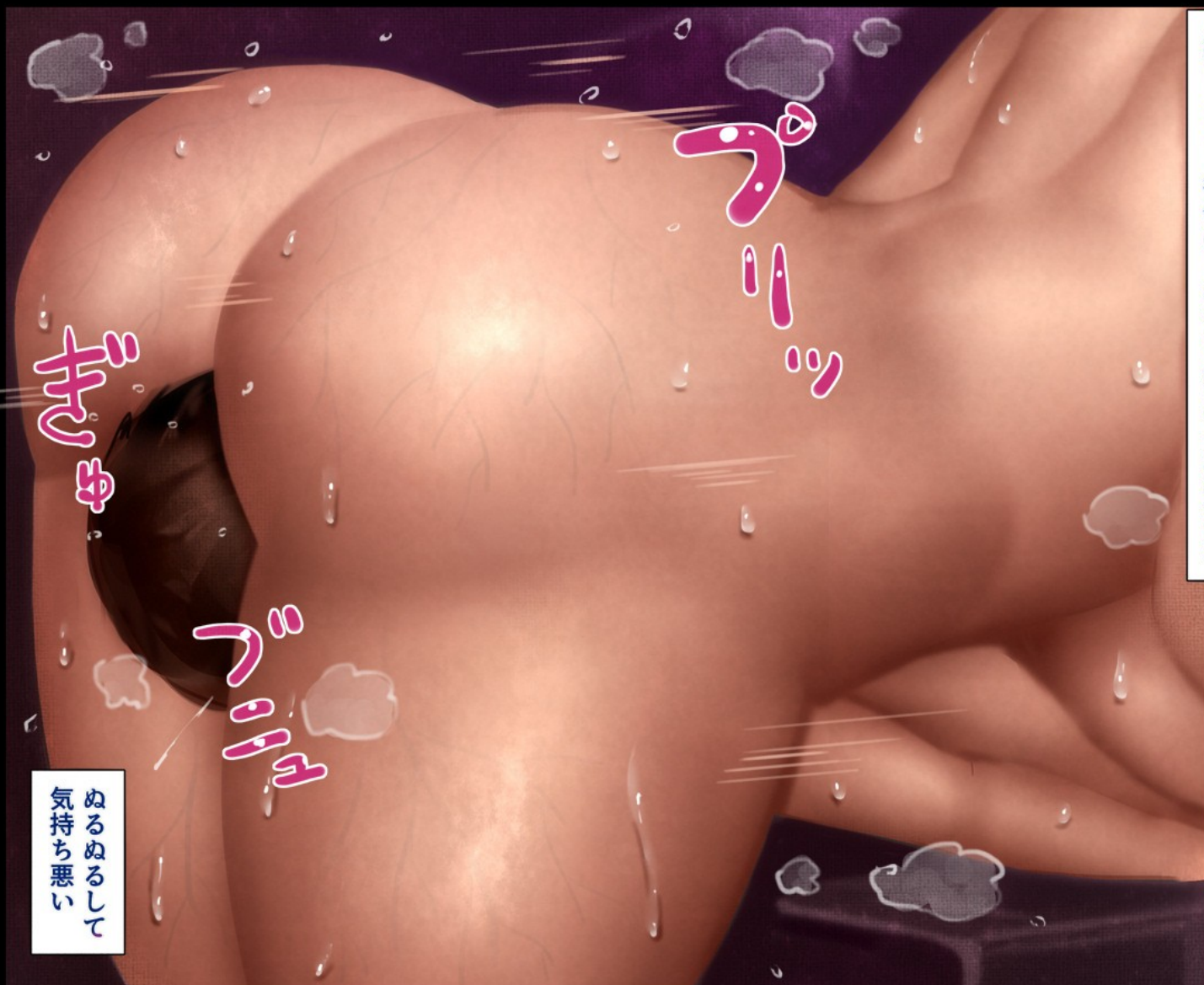


普段ならもう寝ている時間だし、疲労感のせいで一気に眠気がやってきて、意識が遠のいていく。

どれくらい眠ったのだろう。数時間、数十分いや、たったの数分だけかもしれない。

・・・

息苦しさ、得体のしれない臭いで目が覚めた。





かば

はい。

いいえって言ったから
どんな目に合うかわ
からない

ねば

ねえ、わたしのまんま
にちんちん入れたいわよ
ね？ ね？ ね？ ね？ ね？ ね？



んっ♡
くる



はい

むぢ

もしかして、こんなおばさん
の子宮に種付けしたいの？

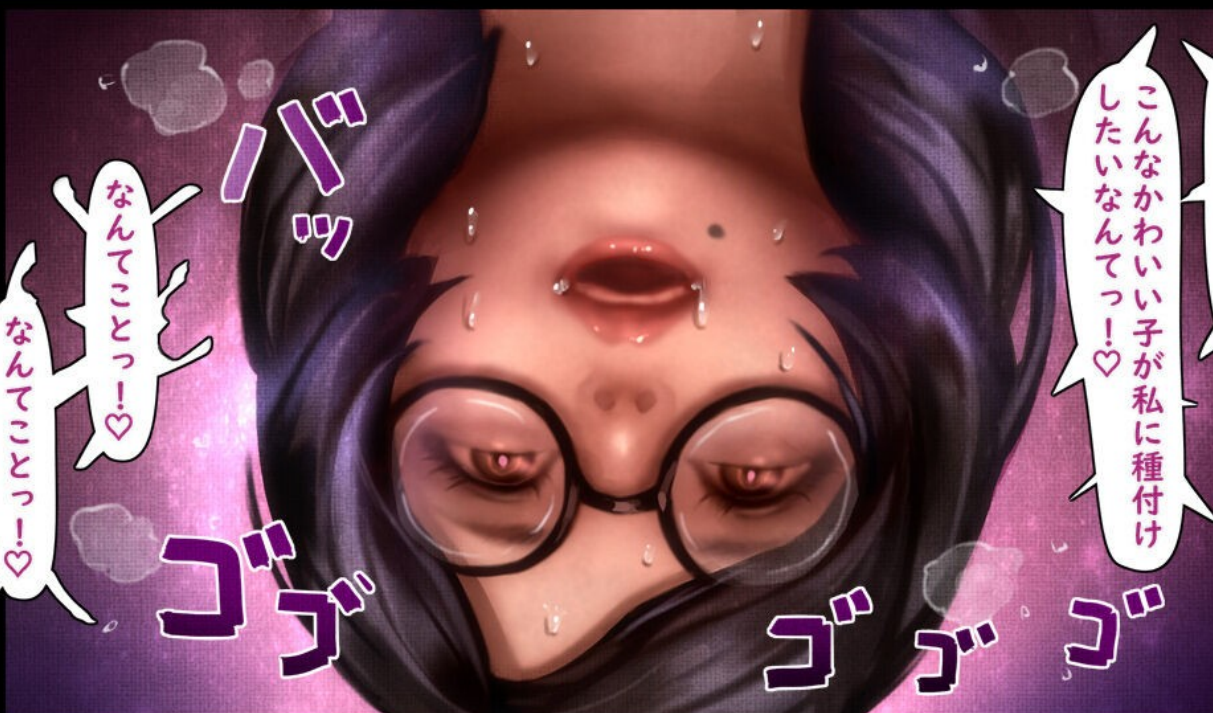


ネチョ

はい。

そしてお汁をいっぱい
びゅーびゅーしたいの
よね？♡

とりあえずはいはい言っておこう



バツ

ゴゴ

ゴゴ

こんなかわいい子が私に種付け
したいなんてっ！♡

きゃああああ！♡

なんてことっ！♡

なんてことっ！♡

・・・え？

妊娠するまで、合体したままっ♡

いいわね?♡

はぁ

はぁ

ええ...。

いやなの?

むぎぎ

いえ

よかったああ!♡

むち

がし





さあ口をあけて

もぎゅ

くちゅ

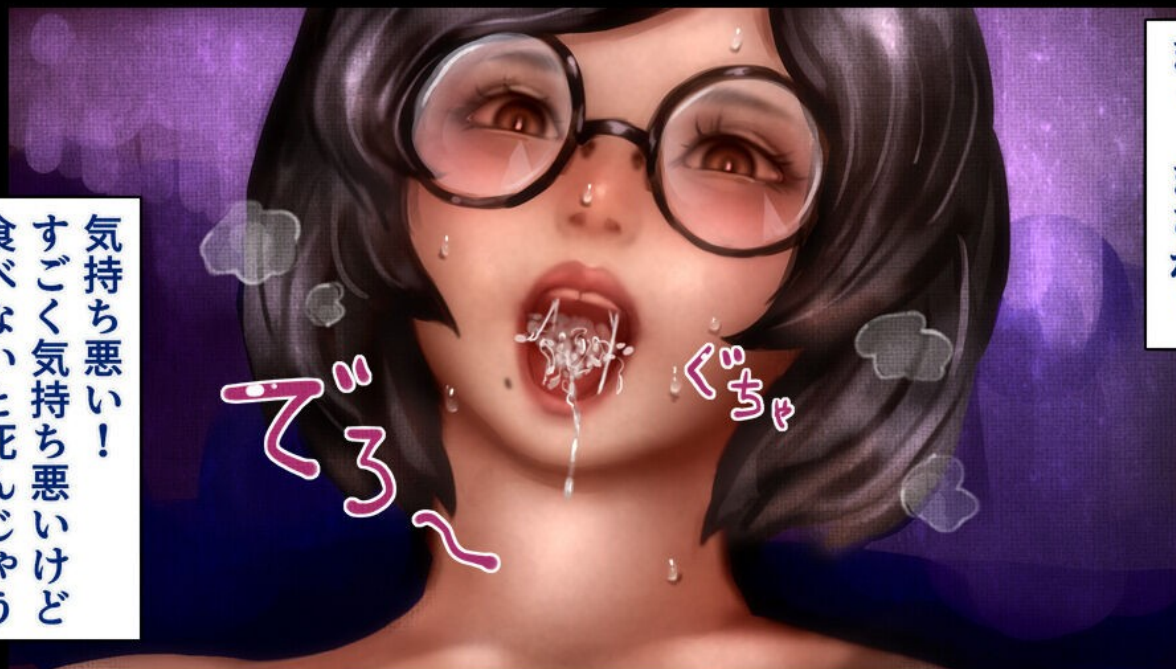


元気な精子作れないわ♡

・・・?

あーん

お腹減ったわよね？
ご飯食べて栄養付けないと！♡



まっ、まさか！

気持ち悪い！
すぐ気持ち悪いけど
食べないと死んじゃう
かもしれない！

でゅ

くちゅ



ゴッ

あらあら♡
慌てて飲み込むから

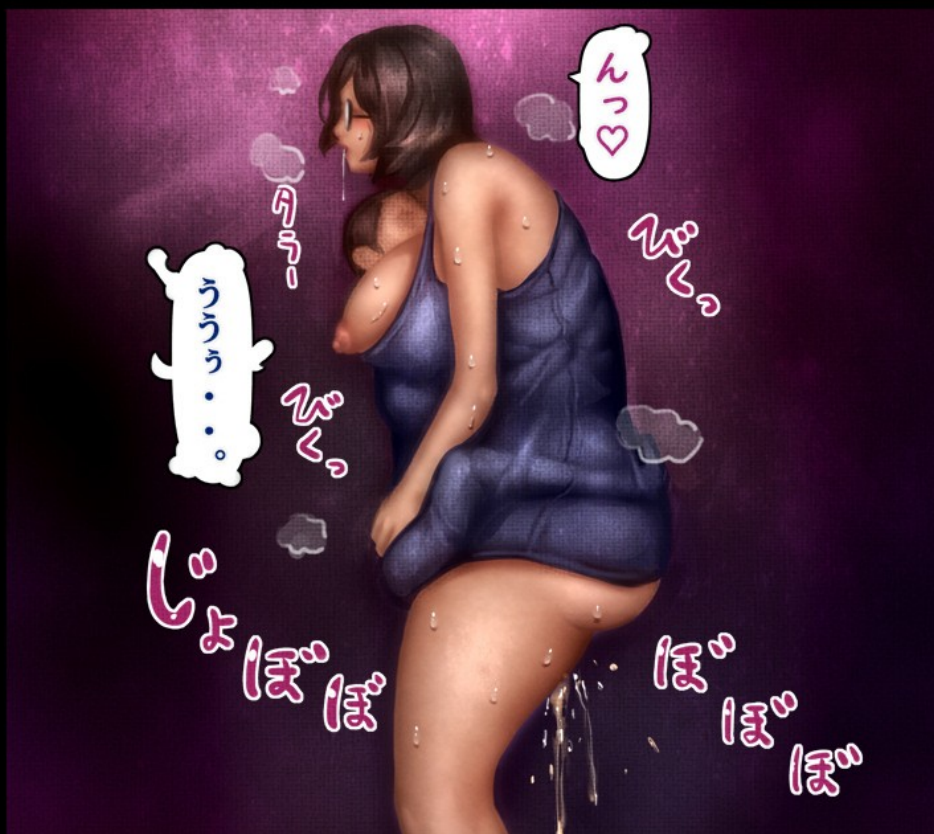


はー♡

はー♡

げほっ、おええっ

ぐふ



数日後

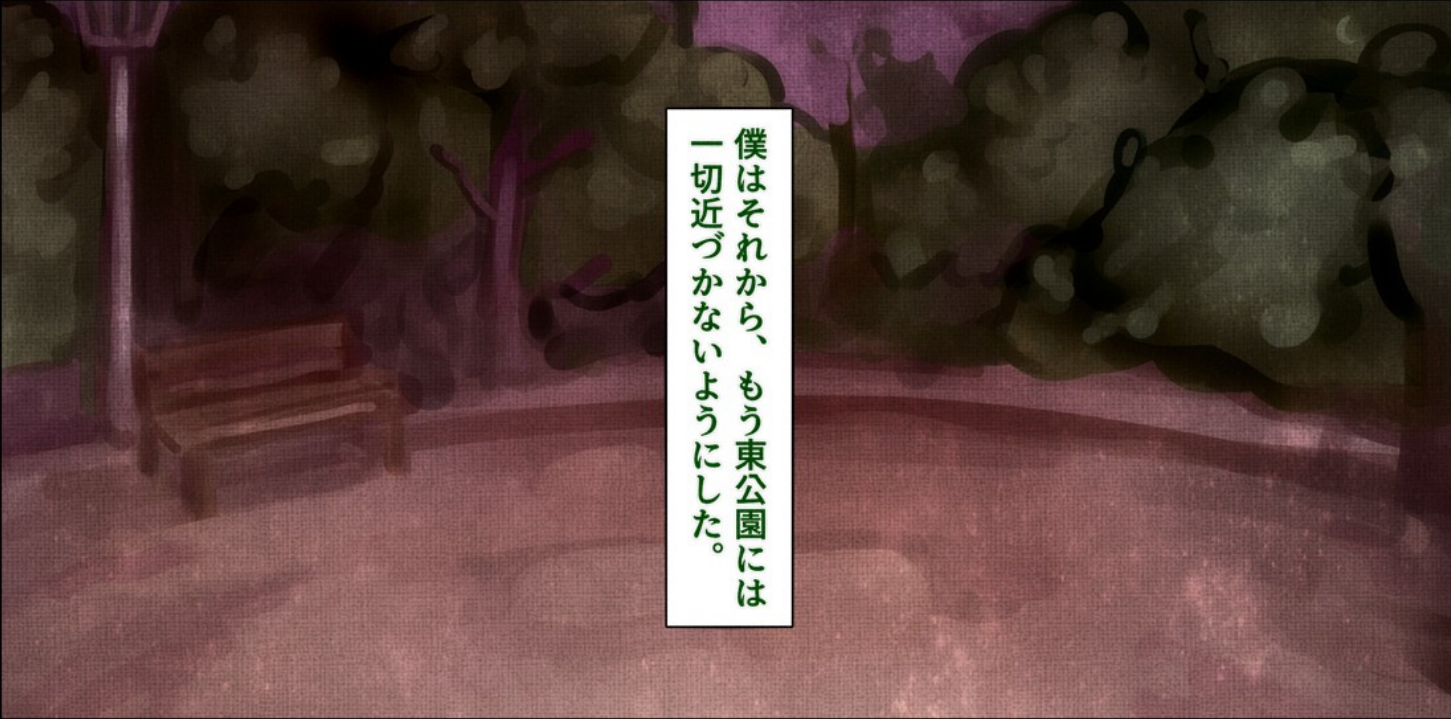


タクヤが学校に来なくなった。
絶対ハラモドキが関係している
はずだ。



親や学校の先生に全てを
打ち明けて相談しようと
思ったが、そのたびにハ
ラモドキの顔が浮かんで、
ハラモドキの怒りを買う
ようなことはしたくない
と思った。

怖かったんだ。



僕はそれから、もう東公園には
一切近づかないようにした。

先輩から面白い話を聞いた。
隣の「廃屋」と「ハラモドキ」
の話だ。

先輩は十年前、友達と3人で廃屋
に入り、その後先輩以外の2人は
行方不明になった。

さすがに警察とかが黙ってないだ
ろうし、子供のころの話だ。多少
話を盛ってるだろうとは思ったけ
ど、たまたまこの近くに来る機
会があったので、例の公園に来て
いた。



他人の空似ってやつか。
不思議なこともあるもんだ。

十歳くらいの頃の俺とよく似て
いる。



でも、僕もう向こうで遊んでく
るから、気にしないでいいよ。



...



ええ、だから問題なの。

ぬっ

むち

先輩に話を聞いただけなんだ！

カケルは俺の先輩だ！

違う！カケルじゃない！



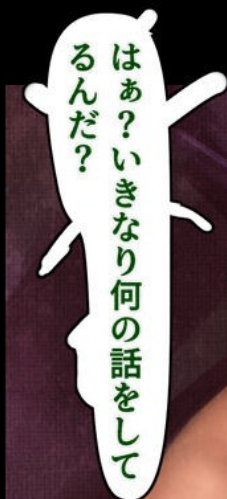
びん

久しぶりね
カケルくん。

どうなってる！

一体何なんだ・・・！

ガチ



はあ？いきなり何の話をして
るんだ？

むち

あなたに友達なんていなかった

最初にあなたを捕まえたときに
名前を聞いたら「ヒロム」と答
えたわ。

嘘をついているとは思えな
かった。だけどあなたが家
に入って落書きをしたこと
は間違いなかった。

だからあなたを家に連れて
いって、お仕置きしたの。



そして私は「ヒロムくん」
がいなくなった話を「タク
ヤくん」に聞いたとき、こ
う思ったの・・・。



そしたら何日か後の夜にま
たあなたが来た。そして名
前を聞いて確信したわ。

あなたが解離性同一性障害の
子だって。

・・・っ！

もわ

常に精力を奪われ続けている
せいか、単純な栄養失調か、
両方かもしれないが四肢に力
が入らない。

はー

はー

はー

あぁっ

そして排便はお互いにつながっ
たまま済ませていて、長らく風
呂にも入っておらず、立ち込め
る異臭に嗅覚がやられて脳も正
常に機能していない。

ぶちゅ

ブルン

バチン

はちゅ

ぶじゅ

ぶちゅ

ニチ

このままだと死んでし
まうかもしれない！

いやだ！

死にたくない！

パン

パン

パン



ダニッ



9年前

僕は友達を2人失った。

「ヒロム」と「タクヤ」

どうしても我慢できなくなって、同じクラスの子に2人のことを聞いてみると、

「そんな奴はいない」
「お前はいつも一人で遊んでいた」と言っていた。

僕は怖くなって学校へ行かなくなった。

ぎゅ

もう少しであれから1年経つ。そろそろはつきりさせないといけない。

すべてはあの「ハラモドキ」が知っているはずだ。

こんにちわ!

誰かいますか!

ゴゴ

ゴゴ



えっなんで

なんでだっけ・・・

！

タプ

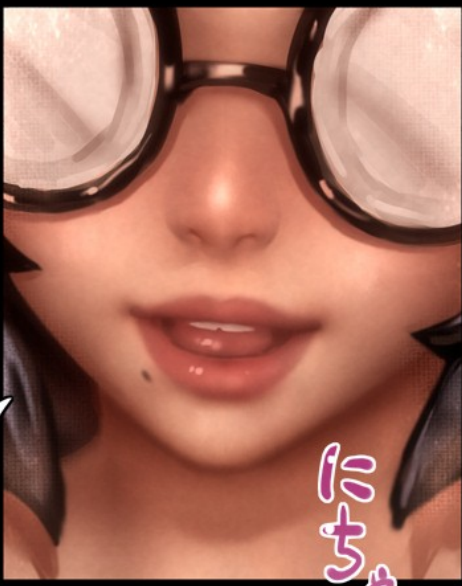
タプ

ぽてっ

おなか大きい！



ギシッ



あなたの子よ

にゅ



あああっ！

フルッ

フル

あっ・・・

思い出したのね。

ううっ

グストッ

うぐっ

本当は友達がいなかったことを知ったからか、それとも「友達が消えた」ことを理解したからか、涙が止まらない。

ハラモドキはゆっくりと抱きしめてくれた。

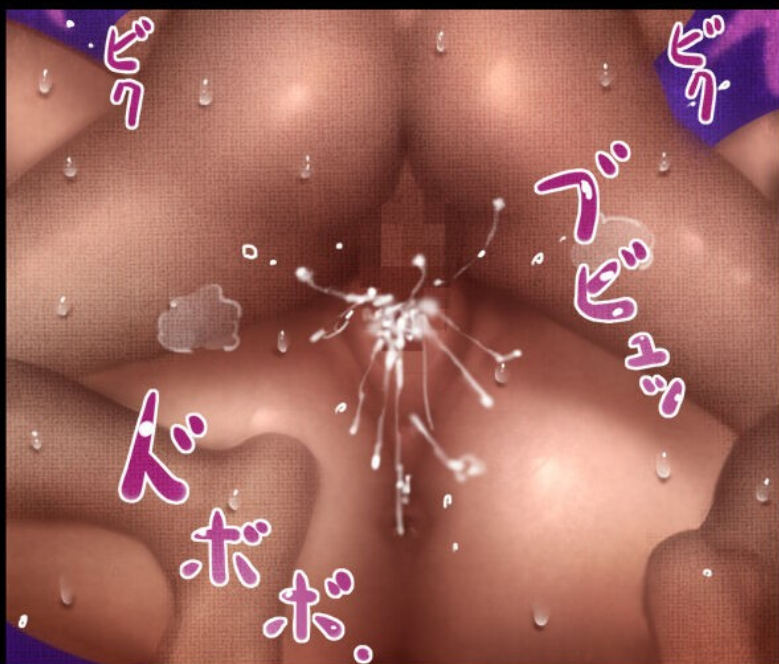
まゆ

しち

そして、悲しさや孤独感と同時に、もう一つふつふつと湧き上がる強い衝動があった。

ムウ ムウ

ハラモドキの肌の温かさや柔らかさを思い出したのだ。





ええ、やだよ

また会いたいよ。



いいえ

「あなた」はもうここにきてはいけないわ

たふ

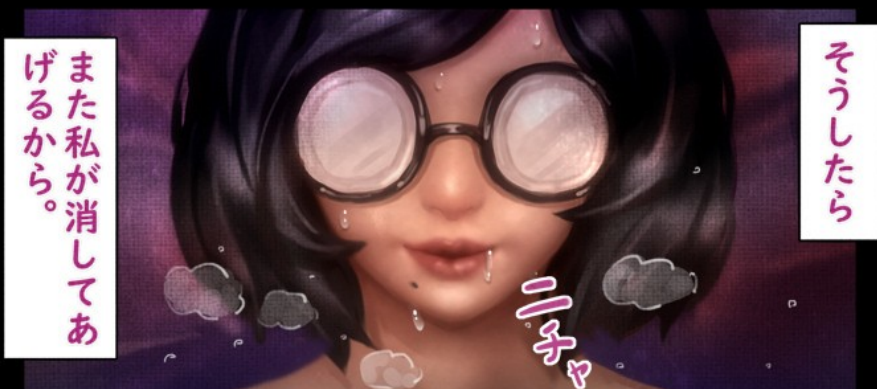


...

だけど、困ったときは私のところに連れてきて。

どういふこと？

かし



そうしたら

ニチャ

また私が消してあげるから。

体の主人を奪われて、生活に支障が出るようになったら「友達」を私のところに来るように、上手く誘導して